

私は子どもの頃、夏休みに祖父母の田舎へ遊びに行くのをとても楽しみにしていました。お盆近くになれば大勢の孫が集まってあつという間に騒々しくなります。すると祖父は決まって「宮様へ参って来い」と孫たちを神社へ行くよう、勧めるのが口癖でした。

樹齢千数百年の大きな杉の御神木があるその神社は、境内の木陰の辺りはひんやりとした空気が漂い、多くの石畳には苔むす神秘的で歴史のある村の守り神として存在する場所です。私はよくそこでいとこたちとセミを捕ったり、鬼ごっこをしたりして遊びました。管理していた社務所には高齢の宮司夫婦が住み、時おりたずねて行くと、おやつを買うお小遣いをくれることもありました。



ある朝、いつものように社務所に行き呼びかけますが、返事がありません。奥に進んでいくとおばあさんがしょんぼりと座っていました。「どうしたの？」とわけをたずねると、正座をして、遠くを見つめて次のように話してくれました。

戦争のため村の多くの次男・三男は、この神社で必勝祈願をして出征していったこと。しかし、その多くは帰らなかったこと。そして、神社の一人息子も志願して出征したこと。終戦後に「サイパンで戦死」という通知が届き、遺骨さえ戻らなかったこと。最後には出征前に撮ったという、軍服姿の青年の写真を胸に、涙を流しながら静かに話してくれたことを思い出します。その日は、ちょうど8月15日、終戦の日の朝でした。

その後私は、神社の木の下で、たくさんの若者たちや写真に写っていた青年のことを思い浮かべました。この地域に確かに生きていた若者の命が、戦争で消えた。そして、それがもし私の祖父も一緒だったら、自分はここにいなかった。もし戦争がなかったら、この境内をもっとたくさんの子どもが走り回っていたのかもしれない・・・と。

さて、戦後70年以上が過ぎ、戦争を体験された方も高齢となりました。そして、その悲しみや痛みを直接受け継ぐことが難しくなっています。私は、あのおばあさんから聞いた話も、祖父母から聞いた戦争に関する話もまだ息子に伝えていません。しかし、今、あの写真の青年と息子は1～2年しか変わらない年齢になった時期だからこそ、どうしても伝えておかなければ、と考えるようになりました。

今はお盆期間中ですから、ご親戚やご家族皆で過ごされている方も多いのではないのでしょうか。この機会に普段聞けない戦争体験のことや昔の暮らしのことなどについて話題にしてみるもよいかもしれませんね。【Y】

※メルマガ第 654 号【ラジオ体操】の中で掲載したラジオ体操の歌の歌詞を間違ってお届けしてしまいました。正しくは、

♪新しい朝が来た 希望の朝だ 喜びに胸を開け 大空あおげ♪でした。お詫びして訂正いたします。すみませんでした。お気づきになり、お知らせくださった皆様ありがとうございます。

○メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。(アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^\_^))

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」(<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>) > 「発行物・刊行物」 > すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしくお願ひします(^\_^)/

\*\*\*\*\*

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索